

(お知らせ)

「平成19年度 容器包装3R推進環境大臣賞」の決定について

平成19年10月12日(金)
 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
 企画課リサイクル推進室
 直 通：03-5501-3153
 代 表：03-3581-3351
 室 長：西村 淳 (内線 6831)
 室長補佐：橋本 郁男 (内線 6854)
 係 長：安藤 英俊 (内線 6837)

環境省では、容器包装廃棄物の3Rの推進に資する活動の奨励・普及を図るため、平成18年度から「容器包装3R推進環境大臣賞」を設けています。

本年度は平成19年7月23日(月)から9月7日(金)まで一般募集を行ったところ、合計31件(地域の連携協働部門13件、小売店部門8件、製品部門10件)御応募いただきました。

「平成19年度 容器包装3R推進環境大臣賞 審査委員会」(委員長：国際連合大学 安井副学長)で審査した結果に基づき、各部門の最優秀賞、優秀賞、奨励賞を決定し、10月18日(木)に開催される3R推進全国大会において授与式を開催します。

1. 環境大臣賞の選考

国際連合大学の安井副学長を委員長とし、次表の6名から構成する「平成19年度 容器包装3R推進環境大臣賞審査委員会」(以下、「委員会」という。)を開催し、部門別に最優秀賞、優秀賞及び奨励賞を選考しました。

<審査委員会の名簿>

区分	氏名(敬称略)	所 属
委員長	安井 至	国際連合大学副学長・東京大学名誉教授
委 員	酒井 伸一	京都大学環境保全センター教授
	崎田 裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー
	佐々木 春夫	社団法人 日本包装技術協会専務理事
	塩谷 喜雄	日本経済新聞論説委員
	由田 秀人	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長

2. 環境大臣賞の決定

審査委員会での選考結果に基づき、地域の連携・協働部門及び小売店部門については、最優秀賞1件、優秀賞1件、奨励賞2件を決定し、製品部門については、最優秀賞1件、奨励賞2件を決定しました。

【地域の連携・協働部門】

区分	応募団体	取組名称	取組概要
最優秀賞	財団法人地球・人間環境フォーラム 理事長 <small>すみたにしげる</small> 炭谷 茂 (東京都文京区)	リユース食器ネットワーク ～楽しいイベントに、ごみはいらない。	リユース食器やカップを貸し出すほか、イベント会場での食器洗浄車によるデモンストレーション、エコイベントのコーディネートなど独自の活動を展開
優秀賞	あだちエコネット事業パートナーズ 足立区長 <small>こんどう</small> 近藤やよい (東京都足立区)	あだちエコネット事業 ステージ2 ー生活者・小売店・自治体が協働するペットボトル新回収・リサイクル事業ー	生活者、事業者、自治体、地域団体、学校等がパートナーシップを組み、足立区全体でのペットボトル店頭回収等を実施、スーパー8社、25店舗が参加。 取組により区内の全回収量が約10%増加。スーパーが地域共通のIC利用の環境ポイントカードを利用したのは全国初。回収ペットボトルは国内でボトルtoボトルのケミカルリサイクルで再循環。
奨励賞	ごみ5R推進本舗 代表 <small>おちあいまゆみ</small> 落合真弓 (広島県福山市)	ばら祭「笑 <small>え</small> コ笑 <small>え</small> コもったいない」プロジェクト	出展業者の理解と協力を得て、中学生を主体とする学生・一般・団体約700名、行政職員約150名のボランティアの活躍、事業者の協力により、容器包装廃棄物のリサイクルを実施。
	日本一の芋煮会フェスティバル協議会 会長 <small>やまざわすすむ</small> 山澤 進 (山形県山形市)	「日本一の芋煮会フェスティバル」が発信する「3R推進活動」	芋煮を食べる際に使用する容器に「エコ発泡どんぶり」を使用。 徹底した分別回収を呼びかけ、会場内で約90%の分別回収を実施。「ゴミ持ち帰り運動」による美化活動、「マイ箸」「マイどんぶり」持参の呼び掛け等、ごみ減量の取組を実施。

【小売店部門】

区分	応募団体	取組名称	取組概要
最優秀賞	生活協同組合コープこうべ 組合長理事 <small>あさだかつみ</small> 浅田克己 (兵庫県神戸市)	店舗でのマイバッグ運動（全店でレジ精算方式を実施）とリサイクル運動	昭和53年から「買い物袋再利用運動」を開始、平成7年からレジ袋を必要な人に1枚5円を自主的に代金箱へ支払う方式を導入。平成19年2月から一部店舗でレジ精算方式に変更し、6月からは食品を扱う全店舗（150店舗）で実施。 平成2年度から牛乳パックの回収を開始し、平成3年度からはアルミ缶、スチール缶、ペットボトル、食品トレイの店頭回収を開始。

優秀賞	有限会社ラッキーピ エログループ 代表取締役社長 おういちろう 王一郎 (北海道函館市)	MyMy運動 (M y箸、Myバッグ、 My容器持参)	「もっともっとやさしい宣言」の具体的取組として、平成13年10月から廃油のリサイクル、生ゴミの堆肥化、缶、ビン、PET、段ボールのリサイクル、16年から「MyMy運動」を開始。
奨励賞	生活協同組合コープ いしかわ 理事長 よこまかずお 横山和男 (石川県白山市)	買い物袋持参運動 の向上にむけての 取組	買物袋持参率76%を目標に、新規組合員へのマイバッグプレゼント、マイバッグ持参時特典、行政との協定の締結など、長年にわたり幅広い取組を展開。
	株式会社ローソン 代表取締役社長 CEO にいなみたけし 新浪剛史 (東京都品川区)	ケータイ運動	顧客と一緒にできる環境保全活動として、2007年春より“ケータイ運動”を推進。いつも持ち歩けるケータイバッグ「コンビニecoバッグ」とケータイお箸「みどりのかけ箸」を作成し展開。

【製品部門】

区分	応募団体	取組名称	取組概要
最優秀賞	大塚製薬株式会社 代表取締役社長 ひぐちたつお 樋口達夫 (東京都港区)	ポカリスエット 500ml ペットボト ル (エコボトル)	2005年から独自に技術開発を実施。飲料容器としての安全性を保ち、易流通性を確保すると同時に、国内製造最軽量のペットボトル容器重量18g (エコボトル) を実現。
優秀賞	該当なし		
奨励賞	有限責任中間法人グ リーンライフ21 代表理事 かとうせいじ 加藤誠二 (岐阜県多治見市)	Re食器	Re食器は生活の中で壊れ、馴染まなくなった不用食器や産地内で発生した不良品を回収、粉碎して原料の一部に20%以上まぜて再度焼成する使用者参加型の製品。使用者・行政・流通等のネットワークで実現。
	中央化学株式会社 代表取締役社長 わたなべまこと 渡辺 信 (埼玉県鴻巣市)	使用済みPSP (発泡PS)トレ イの店頭回収・リ サイクル及び付加 価値リサイクル製 品の開発、ケミカ ルリサイクル技術 の実証試験等の取 組み	平成2年から、スーパー、生協と連携し、使用済みPSPの白色・色柄トレイを回収し、非食品容器に再商品化。京王鉄道とPET定期券入りベンチを、伊藤園とお茶殻入りベンチを共同開発

3. 環境大臣賞の授与式の開催

- (1) 日時：平成19年10月18日（木）、13:30～16:30（第2回3R推進全国大会の中で開催）
- (2) 場所：リーガロイヤルホテル小倉 ロイヤルホール（福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-2）

4. 受賞者による発表会の開催

- (1) 日時：平成19年10月29日（月）、13:00～15:30（予定）
- (2) 場所：ホテルはあといん乃木坂（健保会館、東京都港区南青山1-24-4）
- (3) 内容：受賞者が取組状況を概説する予定
※ 撮影など当日取材が可能です。

5. 担当

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室 担当：橋本・安藤
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2
TEL：03-5501-3153（直通）、03-3581-3351（内線6854）、FAX：03-3593-8262
電子メール：YOURIHOU@env.go.jp

取組区分	再使用(リユース)
団体名	財団法人地球・人間環境フォーラム 理事長 炭谷 茂
住所	東京都文京区
取組の連携実施主体 NPO法人環境リ・ふれんず、プロ・ワークス、NPO 法人エコネット上越、環境 NPO 良環、ベアーズファーム、ねっとわーく福島潟、リユース・くらぶ・にいがた、て to て倶楽部、豊栄福祉交流センター”クローバー”、PIG UP、仙台市葛岡リサイクルプラザ、NPO 法人スペースふう、A SEED JAPAN、NPO 法人社会資源再生協議会、日産スタジアム、tiny drops shizuoka、NPO 法人富士市のごみを考える会、名古屋学院大学”マイルポスト”プロジェクト、デポネット三重、環境対策支援便 RE-ECO、千里リサイクルプラザ研究所、リユース食器の ABC、NPO 法人タブララサ、立命館アジア太平洋大学環境サークル ones'1、那覇市リサイクルプラザ アースの会	
取組名称	リユース食器ネットワーク ～楽しいイベントに、ごみはいらない。
概要 ・本取組は、NPO/NGOや自治体、大学の環境サークルなど拠点となる 26 団体の連携のもとに行われている。「楽しいイベントに、ごみはいらない」をテーマに各団体はそれぞれの地域でリユース食器やカップを貸し出す他、イベント会場での食器洗浄車によるデモンストレーション、エコイベントのコーディネートなど独自の活動を展開している。 ・リユース食器ネットワークのホームページを通じ、各団体の取り組み内容やリユース食器導入事例の紹介、イベント案内、環境負荷についての情報発信を行っている。 ・年に1回リユース食器フォーラムを開催し、団体間で情報交換を行うほか、リユース食器ネットワーク共通のカップを製作している。	
受賞歴 -	
先進性・独自性 ・団体間での食器の融通 地域に適したリユース食器の普及・促進活動を独自に進めているが、大量の食器貸し出し依頼がある場合、ネットワーク内で連携し、各団体が保有する共通カップ等を集め、融通することで大口への対応を可能にしている。 ・地域から全国へ、全国から地域へ 地域内に限定されがちな個々の団体の活動情報をリユース食器ネットワークを通じて全国に紹介する一方、衛生・保管面などの課題への対応策、回収率の向上方法などの情報をリユース食器ネットワーク事務局から各団体に提供している。	
有効性 リユースカップと使い捨て紙コップを比較した LCA 評価によると、エネルギー消費量は 6.3 回以上、CO ₂ 排出量は 2.7 回以上、水消費量は 2.7 回以上、固形廃棄物は 4.7 回以上のリユースで紙コップの負荷を下回る。リユースカップは 50 回程度繰り返し使用できることから、リユースの回数が増えるほど、1 回あたりの各負荷量は減り、ごみの減量効果や地球温暖化防止、資源の節約につながる。	
継続性 ・2005 年3月に設立されたリユース食器ネットワークは 16 団体のネットワークでスタートし、2006 年に4団体増加し、20 団体になり、2007 年 9 月現在、26 団体になっている。 ・毎年「リユース食器フォーラム」を開催し、一般へのPRとともに、本取組の進捗状況・課題の整理、団体間の連携を確認する場としている。	
波及性 ・リユース食器導入イベントの増加 ap bank fes '06 において、リユース食器ネットワーク共通カップ 4000 個が拠点 10 団体から集められ、4 万 5200 個の使い捨てカップの削減に成功した。2007 年7月の ap bank fes '07 ではカップだけでなく食器も全面的に導入され、3万人が利用するなど、一度利用したイベントでは継続して利用されることが多く、イベント参加者が自身の主催するイベントでも利用するという波及効果もみられる。 ・自治体によるリユース食器導入補助制度 山梨県増穂町では、同町で実施されるイベントにおいてリユース食器を使用した際の費用の一部補助。横浜市青葉区でも「青葉リユース食器利用促進補助事業」を実施。	
その他 洗浄費込みの有料での食器貸出団体は、地域密着型のコミュニティビジネスとしても成功を収めつつある。	
推薦の有無 -	

取組区分	再生利用(リサイクル)
団体名	あだちエコネット事業パートナーズ 足立区長 近藤やよい
住所	東京都足立区
取組の連携実施主体	株式会社イトーヨーカ堂、サミット株式会社、株式会社西友、株式会社マルエツ、株式会社ライフコーポレーション、日東燃料工業株式会社、株式会社サンベルクス、株式会社コスナカムラ、帝人ファイバー株式会社、株式会社トムラ・システムズ・ジャパン・アジアパシフィック、住友商事株式会社、NTTコミュニケーションズ株式会社、ボランティア技能集団トイ・ドクターズ
取組名称	あだちエコネット事業 ステージ2 －生活者・小売店・自治体が協働するペットボトル新回収・リサイクル事業－
概要	<p>・あだちエコネット事業とは、足立区を舞台に、生活者、事業者、自治体、地域団体、学校等がパートナーシップを組み、連携・協働して地域の環境活動に取り組む事業。</p> <p>・第一弾として、ペットボトルの資源回収・リサイクルの新しい事業創造に着手。</p> <p>・スーパー店頭を回収拠点に選定、自動回収機(RVM)を使用して区民から資源回収。自動回収機への投入の際「キャップとラベルをはずして」「水洗いをして」等の分別回収ルールを店頭のサインや印刷物で区民にわかりやすく伝え、周知徹底を図る。</p> <p>・環境ICカード「あだちエコネットポイントカード」を導入。ペットボトルの資源回収で楽しくポイントをためられる仕組み。1本あたり5ポイント(0.5円相当)を提供、1000ポイントで100円分の買い物券等と交換。</p> <p>・回収したペットボトルは、自動回収機の機能を活かし、効率の高い回収作業、収集運搬を行い、最終的には国内でボトル to ボトルの再商品化を行うプラントで処理。</p>
受賞歴	－
先進性・独自性	<p>・ペットボトルの店頭回収の新モデルを創造</p> <p>・ICカードを使用した環境ポイントカード・システムを開発。スーパーチェーン8社25店が地域共通の環境ポイントカードを導入したのは全国初。</p> <p>・回収ペットボトルは国内でボトル to ボトルの循環型リサイクル</p>
有効性	<p>・18年7月から順次導入したペットボトル新回収システムの回収実績は、19年8月までの累計の本数で5533476本、重量で198t。この期間の足立区回収全ルート合計回収量を前年と比較すると約10%増となり、回収量全体の増加に寄与。</p> <p>・ポイントカード導入により、資源回収量は急増。18年11月末にカード導入した4店の12月回収量は前月に比べて平均66%増加。</p> <p>・地域生活者の積極的な店頭回収への参加により、回収効率の高いルート構築が可能に。</p> <p>・自治体のペットボトル回収に関わるコストの削減に貢献</p> <p>・自動回収機は資源回収を担当する小売店の業務改善、オペレーションコスト削減にも貢献。</p>
継続性	<p>・参加パートナーの拡大(18年度:スーパー5チェーン16店舗参加、19年度:新たに14店舗が導入計画)</p> <p>・単発のイベント・キャンペーンではなく継続事業として実施</p>
波及性	<p>①スーパーと自治体が協働する店頭回収の取組みは、地域生活者から高い支持を受けている。「買ったところに容器を還す」ライフスタイルは、「いつでも自分の生活時間に合わせて利用できる」利便性に支えられて、着実に地域生活者の暮らしに浸透を見せている。</p> <p>②ペットボトルはごみではなく貴重な資源だという認識が浸透し、経済的で環境負荷の少ないリサイクルシステムに参加しようという意識が生活者の分別回収のマナー向上につながっている。</p> <p>③自治体事業の流れをくむ資源回収・リサイクル事業に、民間の知恵やセンスを生かした細やかなサービスが取り入れられている。</p> <p>④この事業を契機に小売店と自治体の対話が深まってきている。</p> <p>⑤この事業の実施以降、複数の自治体や小売店からのヒアリングが入り、同様なシステムの導入が検討されている。</p>
その他	－
推薦の有無	－

部門：地域の連携・協働部門 区分：奨励賞

取組区分	発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)
団体名	ごみ5R推進本舗 代表 落合真弓
住所	広島県福山市
取組の連携実施主体	福山祭委員会企画実行委員会 つれのうて友の会 株式会社オガワエコノス P&Pリサイクル 福山祭実行委員会及び福山市
取組名称	ばら祭「笑コ笑コもったいない」プロジェクト
概要	<p>・2005年、福山祭委員会企画実行委員長より「ばら祭をクリーンで楽しい祭りにしたい」との申し出を受け、関係者と連絡、連携し、プロジェクトを実施。</p> <p>・出展業者の理解と協力、中学生を主体とする学生・一般・団体約700名のボランティア及び約150名の行政職員によるボランティアの活躍により実施。</p> <p>・株式会社オガワエコノス、P&Pリサイクル及びヨコタ京都工場などの協力の下、容器包装廃棄物のリサイクルを実施。</p>
受賞暦	2006年国際ソロプチミスト日本財団環境貢献賞、RCCエコロジーファンド大賞
先進性・独自性	<p>・中学生を主体とするボランティアの活躍とごみ5R推進本舗の会員企業の参画で本事業は達成された。中学生主体が来場者とともに分別や場内美化への協力を誘発し、環境保全意識の向上が図られた。</p> <p>・行政職員もボランティアで参加することで協働と環境保全の意義を学べる場となった。</p>
有効性	<p>取組を始めた2005年→2007年の容器包装発生量の変化(取組前のごみ量は2トン車10台分)</p> <p>マテリアルリサイクル</p> <p>缶 850kg→380kg</p> <p>ペットボトル 291kg→210kg</p> <p>P&Pトレイ 156kg→494.5kg</p> <p>洗ったプラスチック 94.8kg→121.9kg</p> <p>段ボール 140kg→0kg</p> <p>サーマルリサイクル</p> <p>汚れたプラスチック類 1250kg→490kg</p> <p>汚れた紙類 1870kg→930kg</p> <p>リサイクル合計 2196→4019kg</p> <p>焼却処分 3120→0kg</p> <p>リサイクル率 41.3%→100%</p>
継続性	2005年から開始以後、毎年、企画実行委員会の部会としてプロジェクトをつくり実施。
波及性	<p>①企画実行委員会の構成部会として「笑コ笑コもったいない部会」を2006年から創設し、祭り全体の取組として認知された。</p> <p>②汚れた紙やプラスチックをRPFにしリサイクルするためにオガワエコノスが参画。町内会や企業などが団体レベルでボランティアとして参加するようになった。</p> <p>③瀬戸内海の音楽イベント、Set Stock や広島フードフェスタ等のイベントの助言に出向き、減量に貢献。地域の祭りも同様。</p> <p>④本取組を参考に福山市がエコイベントマニュアルとグッズを用意し、容器包装類の減量に取組。</p>
その他	本事業は大変話題になり、福山市全体の環境保全意識の向上とNPOと行政、企業の協働のモデル事業として他の事業にも影響を与えている。その大きな要因はアースレンジャーの踊り、歌、寸劇や「笑コ得抽選」など楽しくみんなを巻き込みながらエコをするという取組にある。
推薦の有無	有り
【地方環境事務所】	<p>・近年80万人を超える参加者がある、ばら祭りにおけるごみの減量に取組み、ボランティア・行政・関係業者と連携し、ごみゼロと100%のリサイクルを達成したものである。また、他の祭りやイベントにも助言を行い、その効果を広げている。</p>

部門：地域の連携・協働部門

区分：奨励賞

取組区分	発生抑制(リデュース)、再生利用(リサイクル)
団体名	山形商工会議所青年部「日本一の芋煮会フェスティバル実行委員会」
住所	山形市緑町1丁目9-35
取組の連携実施主体	山形商工会議所青年部、山形商工会議所、山形市
取組名称	「日本一の芋煮会フェスティバル」が発信する「3R推進活動」
概要	<p>・芋煮を食べる際に使用する容器は、ヨコタ東北社(P&Pトレーリサイクル研究会会員)製の「エコ発泡どんぶり」を使用。使用後は徹底した分別回収を呼びかけ、会場内においては約90%の割合で分別回収がなされている。</p> <p>・「ゴミ持ち帰り運動」も併せて展開し、会場の清掃をも喚起している。</p> <p>・リデュース推進の観点から、これまで以上に「マイ箸」「マイどんぶり」持参での来場を呼びかけ、より一層のごみ減量を目指している。</p> <p>・イベント「ふれあい芋煮会」で障害者の方に河川の一斉清掃に協力してもらうとともに、モンテディオ山形(サッカーJ2)の選手との交流会を実施し、一人でも多くの方にリデュース、リサイクルの大切さを呼びかけている。</p>
受賞暦	平成19年度 河川功労者賞
先進性・独自性	<p>・芋煮という山形の伝統料理をテーマにした「食」のイベントで、約19万人の来場者で賑わい、1日で合計3万食以上を提供する、県内でも最大級の規模でありながら、その割に排出されるごみの量が少なく、年々減少している。</p> <p>・本イベントの実施に当たって、関係する団体の規模の大きさ(国、県、市をはじめとする各行政機関、各種企業、一般ボランティア等の幅広い主体が参加)</p>
有効性	<p>・リサイクル製品である「エコ発泡どんぶり」の使用、「マイ箸」「マイどんぶり」の使用の呼びかけ、「ゴミ持ち帰り運動」の展開により、排出されるごみの量が年々減少している。</p> <p>・特に「エコ発泡どんぶり」を使用した15年度からが顕著。</p>
継続性	<p>・日本一の芋煮会フェスティバルは平成元年から実施されており、今年で19回目を迎えた。</p> <p>・イベントの「ふれあい芋煮会」は平成10年より実施されており、今年で10回目を迎えた。</p>
波及性	芋煮を食べる際に使用する容器は、ヨコタ東北社(P&Pトレーリサイクル研究会会員)製の「エコ発泡どんぶり」を使用。「日本一の芋煮会フェスティバル」のイベントに協賛頂いたことが同社製品知名度向上にも寄与している。
その他	”地産地消”にこだわったイベントで、使用する材料について「砂糖」以外は全て地場産品を使用している。
推薦の有無	有り
地方環境事務所	「芋煮」という山形の伝統料理をテーマとした県内でも最大級のイベントで3Rの推進活動を行うことは波及効果大きい。今年で19回目を迎え、今後も継続した3R活動が期待できる。
山形市	「日本一の芋煮会フェスティバル」は、本市としても実施主体の一団体として、市長以下全庁をあげて推進・協力しているイベントである。
備考	エコ発泡どんぶり
	発泡どんぶりの内側に、薄いフィルムが貼られており、食べた後このフィルムをはがして、リサイクル。ゴミを出さない努力をしています。 ゴミの排出量は第15回 2300kg、第16回 1800kg、第17回 2700kg、第18回 2000kg

部門：小売店部門

区分：最優秀賞

取組区分 発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)																			
取扱店舗名 食品を扱う 150 店舗全店																			
団体 生活協同組合コープこうべ																			
住所 兵庫県神戸市																			
取組名称 店舗でのマイバッグ運動(全店でレジ精算方式を実施)とリサイクル運動																			
概要 《マイバッグ運動》 ・昭和 48 年のオイルショックによる物不足パニックの反省に立ち、昭和 49 年から「くらしの見直し運動」を開始。この運動の一環として、昭和 53 年5月から店舗で渡すレジ袋を何度も持参し再利用しようという「買い物袋再利用運動」を開始。 ・平成 3 年には、渡した袋に限定せずどんな袋でもスタンプの対象とする「買い物袋持参運動」に発展させた。しかし、買い物袋持参率の上昇に一定の限界があったため、平成 7 年6月からはレジ袋を渡さず、必要な人に1枚 5円で自主的に代金箱に支払いいただく方式に変更。 ・さらに平成 19 年2月から一部の店舗でレジにて袋を買い上げてもらう方式(レジ精算方式)に変更し、6 月からは食品を扱う 150 店舗全店で実施。	《リサイクル運動》 ・使い捨ての牛乳パックがもったいないという組合員の声から店頭でのリサイクル運動が平成2年にスタート。平成 3 年にはアルミ缶、スチール缶、ペットボトル、食品トレイの回収を開始。店頭で組合員同士が回収ルールを教えあい、分別のレベルを高めながら取組みを推進。 ・日用品を中心とする環境配慮商品を平成2年に誕生させ、平成 14 年には食品分野の環境配慮商品基準を策定し、販売を開始。リサイクル商品としては、牛乳パック再生品のトイレットペーパー、ペットボトル再生品の水切り袋、クロスなどを積極的に販売。																		
受賞歴 平成 18 年度 容器包装3R推進環境大臣賞・優秀賞(コープ甲南) 平成 10 年度 兵庫県環境にやさしい事業者賞・優秀賞 平成 7 年度 リサイクル推進功労者表彰・通商産業大臣賞																			
先進性・独自性 ・レジ袋の節約運動としては昭和 53 年という極めて早い時期から開始し、スタンプによる還元制度を推進。また、平成 7 年度には当時一部の生協でしか取組んでいなかった代金箱によるレジ袋有料化を全店で開始。平成 19 年度には 150 店舗という国内では最大規模の店舗数・供給高規模でレジ袋のレジ精算方式に変更。 ・独自の取組としては、サービスコーナーで申し出いただいた方に買物袋を一定期間お貸しする「レンタル買物袋制度」を実施。	・平成3年の時点で、牛乳パック、アルミ缶、スチール缶、トレイ、ペットボトルの5品目の回収を始めたのが、他のスーパーと比較して早い取り組みと考えられる。 ・消費者からの回収では、きれいな状態で回収できるかどうかが課題になるが、店舗でのリーフレットやパネルなどの情報提供の他、当初は組合員が回収曜日を決めて来店組合員に回収ルールを教えあい、ルールの徹底を図った。																		
有効性 持参率 ・スタンプ還元方式 14.5%(1994 年度実績) ・代金箱方式 72.1%(1996 年度実績) ・レジ精算方式 89.5%(2007 年 6 月度実績) 1995 年6月のレジ袋有料化から 2006 年度末までの節約効果 ・レジ袋の節約枚数 1,053,197,471 枚 ・節約原油量(200 ㍻ドラム缶換算) 121,806 本	平成 18 年度の回収実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回収量</th> <th>回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紙パック 468t</td> <td>44.2%</td> </tr> <tr> <td>アルミ缶 147t</td> <td>20.7%</td> </tr> <tr> <td>スチール缶 112t</td> <td>37.1%</td> </tr> <tr> <td>トレイ 342t</td> <td>79.2%</td> </tr> <tr> <td>ペットボトル 518t</td> <td>19.4%</td> </tr> <tr> <td>商品情報紙 3250t</td> <td>30.6%</td> </tr> <tr> <td>卵パック 47t</td> <td>46.3%</td> </tr> <tr> <td>商品を届けるためのポリ袋 53t</td> <td>10.8%</td> </tr> </tbody> </table>	回収量	回収率	紙パック 468t	44.2%	アルミ缶 147t	20.7%	スチール缶 112t	37.1%	トレイ 342t	79.2%	ペットボトル 518t	19.4%	商品情報紙 3250t	30.6%	卵パック 47t	46.3%	商品を届けるためのポリ袋 53t	10.8%
回収量	回収率																		
紙パック 468t	44.2%																		
アルミ缶 147t	20.7%																		
スチール缶 112t	37.1%																		
トレイ 342t	79.2%																		
ペットボトル 518t	19.4%																		
商品情報紙 3250t	30.6%																		
卵パック 47t	46.3%																		
商品を届けるためのポリ袋 53t	10.8%																		
継続性 昭和 53 年に「買い物袋再利用運動」を開始、ポイント制度を導入。平成 3 年に「買い物袋持参運動」に変更、ポイント制度は継続。 平成 7 年6月に「マイバッグ運動」として代金箱方式によるレジ袋有料化開始。平成 19 年6月1日より食品を扱う全店舗(150 店)でレジ精算方式に変更。	・店舗での回収は5品目を現在も継続して実施 ・一升瓶、ビール瓶の回収を継続 ・協同購入の仕組みを通じ、紙パック、商品情報紙、卵パック、商品を届けるために使用している袋と回収品目を拡大しながら継続している。																		

<p>波及性</p> <p>①レジ精算方式は大半の組合員に意義や重要性は理解されている。また、兵庫県内 11 市 1 町と協定を締結し、地域全体で取組んでいる。特に相生市ではコープこうべとの協定を契機に、カワベ、マックスバリュ等の流通企業とも協定を締結し、市内全店でレジ袋有料化をすすめるなど大きな影響を与えた。</p> <p>②「ひょうごレジ袋削減推進会議」のメンバーとして、レジ袋削減の全県的展開に向けた方策の検討に参加し、レジ袋削減の取組みの拡大に貢献。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早い時期から店舗で5品目の回収に取組んだことは、他のスーパーの店頭回収にも影響を与えたと考えられる。 ・学校での総合学習の授業で、店舗のリサイクルの取組みが学習対象とされている。
<p>その他</p> <p>レジ袋代金を以下の環境分野の取組みに活用。有料化以降の 11 年間で合計 73,020 万円を活用。</p> <p>コープこうべ環境基金 28,252 万円 マイバッグ運動の推進 20,415 万円 環境活動への支援 13,709 万円 学習・啓発活動 9,519 万円 スマトラ沖地震寄付 1,123 万円</p>	<p>回収品のリサイクル状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙パックは自社プライベートブランド「コープス」のトイレットペーパーを製造している製紙会社が引取、商品の原料に ・トレイは、トレイメーカーが引き取り、トレイや商品等に ・ペットボトルは国内リサイクル業者に引渡、卵パックやカーペットに ・卵パックは卵パックメーカーが引き取り、卵パックに ・商品を梱包する袋は、パレットやプランターに
<p>推薦の有無 有り</p> <p>【地方環境事務所】 応募者は神戸市等とも連携しつつレジ袋削減に積極的に取組んでおり、150 店舗平均のマイバッグ持参率がほぼ 90%に達するなど着実に効果を上げてきた。また、店舗における資源回収も相当量に達しており、神戸市等の推し進める3Rにも大きく貢献していることから、表彰にふさわしい団体と考えられる。</p> <p>【兵庫県】</p> <p>①マイバッグ運動 レジ袋の削減に関する運動に極めて早い時期(昭和 53 年)から取組、平成7年からはレジ袋の有料化(代金箱制)、平成 19 年度には国内最大規模の店舗数(150 店舗)・供給高規模でレジ袋のレジ精算方式への変更を行うなど、常に小売業者のトップランナーとして取組んでいる。</p> <p>その結果、マイバッグ持参率の飛躍的向上(H6 14.5%→H19.6 89.5%)が見られ、また、レジ袋の節約(約 10 億枚)及び原油量節約(200 リットルドラム缶 約 12 万本)の効果が出ている。</p> <p>②リサイクル運動 紙パック等5品目の店頭回収について、他のスーパーに先駆けて早期(平成3年度)から取組んでいる。その結果、トレイ342トン(回収率79.2%)を始め、各品目で相当程度の回収量・回収率を上げている。また、回収した紙パック等については、いずれも再商品化が図られている。</p> <p>【神戸市】 神戸市では今年2月に改定した「神戸市一般廃棄物処理基本計画」に基づき、平成 27 年度までレジ袋の排出量を 25%削減するとしている。生活協同組合コープこうべは、マイバッグ持参率 90%以上を目標に代金箱方式によるレジ袋削減に取組んできたが、市としてもこの取組を支援し、他の事業者や消費者にも理解と協力を促し、さらなるレジ袋削減のきっかけとするため平成 18 年 12 月に「レジ袋削減に向けた取組みに関する協定」を締結。また、店頭における資源物の回収も全店舗で実施しており、店頭における回収量も市内の店頭回収における資源物の回収量の大半を占めている。こうしたコープこうべの取組みは「神戸市一般廃棄物処理基本計画」実現にも大きく貢献しており、容器包装3Rの推進に寄与していると考えられるため、当該表彰の対象として適当であると考え</p>	

部門：小売店部門

区分：優秀賞

取組区分	発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)
取扱店舗名	ラッキーピエロ全 13 店舗と工場のカリナリー
団体名	有限会社ラッキーピエログループ
住所	北海道函館市
取組名称	MyMy運動(My箸、Myバッグ、My容器持参)
概要	<p>・ファーストフード業は、使い捨て容器を使用し、商品を作り置きして、売れ残ると廃棄するというのが一般的で他の外食産業と比べてごみを出す業態であることから、容器包装ごみ及び生ごみの発生・排出抑制が大きな課題であると認識し、「もっともっとやさしい宣言」の具体的取組として、“体に心に地域にやさしく”を合言葉に、平成 13 年 10 月から廃油のリサイクル、生ゴミの堆肥化、缶、ビン、PET、段ボールのリサイクル、そして平成 16 年から「MyMy運動」を開始。</p> <p>①MyMy 運動 My 箸(自分の箸を持参し、店内で食事する)、My バッグ(商品を持参したバッグで持ち帰る)、My 容器(鍋を持参してカレーのルーを持ち帰る)を持参してきたお客様に資源の無駄使いストップの御礼としてモリモリチュンチュン5コインを1~4枚渡し、このコインをレジ横の「ぶなの木植えようボックス」に入れてもらう。このコイン1枚につき5円をぶなの木の植樹に寄付をし、北斗市で植樹活動を行っている。 さらに本年5月からファーストフード店として初めてのレジ袋の有料化に取組み、レジ袋を必要とするお客様には5円を負担してもらい、全額を植樹活動に充てている。</p> <p>②容器包装廃棄物の再商品化 各店舗にエコステーション等を設置して、空き缶とペットボトルを回収し、資源リサイクルを実施。</p> <p>③店舗、工場の容器包装削減の取組 店舗内で提供する飲み物にはグラスを使用し、包装が必要な商品の場合はシェイクのフタは付けない、二重包装は廃止する等の簡易化を実施。また、工場から各店舗への商品の配送は使い回しができる容器に統一。</p>
受賞暦	平成 18 年度 北海道ゼロ・エミ大賞受賞 平成 17 年度 函館の街をきれいにする市民運動協議会表彰
先進性・独自性	ファーストフード店という他の業態よりも多くの容器包装を使用する業界において、My箸、My バッグ、My 容器の持参をお客様にお願いする「MyMy 運動」という独自の取組を実施。
有効性	・ごみの排出量が平成 15 年に約 130 トンあったが平成 17 年には約 80 トンに減少(約 40%の削減効果) ・このうち容器包装廃棄物については平成 15 年の 81 トンから平成 17 年に約 47 トンに減少(約 42%の削減効果)
継続性	平成 13 年 10 月から生ごみの堆肥化、廃油、缶、ビン、PET、段ボールのリサイクルに取り組んでいる。MyMy 運動は平成 16 年から実施。
波及性	・当店へのリサイクルの取り組みが、若者をはじめとする地域住民や観光客の間に広く普及し、3Rと環境保全の啓発に効果を発揮していると考えている。 ・若者や環境客から「袋はいいです」とよく言われるが、これは当店の活動が広く一般に支持されている表れであると思っている。
その他	昭和 62 年の創業以来、従業員、取引業者等で函館市内の観光地周辺の清掃活動に取り組んでいる。
推薦の有無	有り 【地方環境事務所】 住民や観光客から大変人気のあるファーストフード店であるが、使い捨て容器を使用することが一般的なファーストフード業界において、地域の住民の参加・協力を得ながら、「MyMy運動」の推進や簡易包装の実施、レジ袋の有料化など、容器包装廃棄物の発生抑制、再資源化等に意欲的に取り組んでいる。このうち、容器包装廃棄物の発生抑制と地球温暖化防止を結びつけた「MyMy運動」は、地域住民の理解と協力で容器包装廃棄物の3Rを推進し、植樹により地域にCO2の削減(浄化)を具体化する森を創出しようとする優れた取組

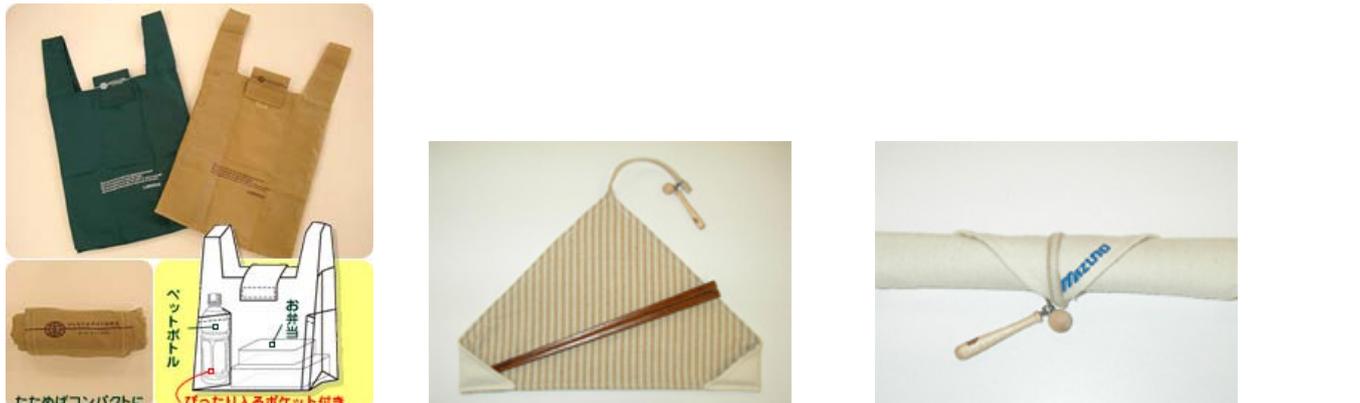
部門：小売店部門

区分：奨励賞

取組区分 発生抑制(リデュース)
取扱店舗名 コープたまぼこ
団体名 生活協同組合コープいしかわ
住所 石川県白山市
取組名称 買い物袋持参運動の向上にむけての取組
概要 2007年度は買物袋持参率目標を76%として取組んでいる。 ①買い物持参袋の呼びかけポスターの掲示、②店内放送での呼びかけ、③新規店舗組合員へのマイバッグプレゼント、④マイバッグの販売と持参時特典(買物袋持参時は1ポイント、曜日ポイント)、 ⑤機関紙等での呼びかけ、⑥環境募金箱の設置、⑦ISO14001(2001年度認証取得)の取組、 ⑧行政との取組 ・金沢市エコショップ・アクションプランの取組(06年12月認定) ・マイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定の締結(07年6月締結)
受賞暦 -
先進性・独自性 ・98年6月開店時から買い物袋持参運動に取組んでいる。
有効性 ①お買い物袋持参の取組で、約66万袋(06年度)のレジ袋を削減 ②CO2換算では68トンの排出抑制に貢献 ③買い物持参率は年々向上 06年度 75.5%、99年度 40% 対比 188.8% この効果は、来店者のご理解・御協力はもちろんのこと、環境関連での行政をはじめとしての広報等によって社会的関心が高まり、一人一人の環境保全意識の向上が高まった結果だと考えています。
継続性 ・買い物袋の持参運動を1993年から進めてきている。 ・1994年5月の石川生協環境政策PJ答申の中で、店舗活動として「買物袋持参・再利用運動」を明記した。
波及性 県内で最も高い持参率の店舗を持つ事業者として、石川県・社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議・事業者の3者協定(マイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定)に、締結12団体の中心的な存在として積極的に参加。
その他 行政とともに以下の活動を推進 ・金沢市エコショップ・アクションプランの取組(06年12月認定) ・マイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定の締結(07年6月)
推薦の有無 -
備考

部門：小売店部門

区分：奨励賞

取組区分	発生抑制(リデュース)
取扱店舗名	ローソン全店
団体名	株式会社ローソン
住所	東京都品川区
取組名称	ケータイ運動
概要	<p>・本業を通じてお客さまと一緒にできる環境保全活動として、2007年春より”ケータイ運動”を推進。いつも持ち歩けるケータイバッグ「コンビニ eco バッグ」とケータイお箸「みどりのかけ箸」を作成し、その普及を通じレジ袋と割り箸の削減に取り組んでいる。</p> <p>・ケータイバッグのデザイン・仕様を一般公開し、全国の賛同企業・団体を募り、ケータイバッグの普及に努めている。</p> <p>・ケータイお箸は、会員カードのポイント交換で約800名様に進呈したほか、社員への配布も行った。また、店頭マルチメディア情報端末「Loppi(ロッピー)」での販売を行っている。</p>
受賞暦	—
先進性・独自性	<p>①ケータイバッグについては、お客さまからの意見・提案を踏まえ、購入頻度の高い弁当とペットボトルがびったり収まり、携帯しやすいようにたたむとポケットに入る小ささになる形状とした。</p> <p>②エコバッグ普及のため販売せずに無料配布</p> <p>③お客さまが欲しいバッグ提供を念頭に、ナチュラルローソンや子育て支援のハッピーローソンでは独自バッグも販売</p> <p>④ケータイお箸については、プロ野球選手のバット材(アオダモ)の不適格材を有効活用、オーガニックコットン製の箸袋付き。</p>
有効性	<p>ケータイバッグ：2007年8月末までに約22万4000枚を配布(ローソン店舗及びローソングループ社員等への配布)</p> <p>ケータイお箸：2007年8月末までに約1万膳を普及(ポイントカードの交換、ローソングループ社員への配布、東京ヤクルトスワローズでのファンクラブ会員等へのプレゼント等を含む)</p>
継続性	<p>1990年代よりレジ袋の軽量化及び店舗スタッフによる声かけに着手。その結果、2006年度の1店舗あたりのレジ袋使用重量は2000年度と比較し、19.4%削減。</p> <p>1店舗あたりのレジ袋使用重量 2000年度 900kg 2006年度 725kg</p>
波及性	<p>ケータイバッグの普及に協力する企業・団体が12に上り、約18万4000枚を作成・配布してもらっている。</p> <p>ケータイお箸も東京ヤクルトスワローズはじめ野球関係団体、普及に協力する企業・団体が少しずつふえていく。</p>
その他	レジ袋や割り箸の削減に向けたポイント付与制度を検討
推薦の有無	—
備考	 <p>コンビニ eco バッグ ケータイお箸「みどりのかけ箸」 バットとボールのミニアクセサリ付き</p>

取組区分	発生抑制(リデュース)、再生利用(リサイクル)
事業者名	大塚製薬株式会社 代表取締役社長 樋口 達夫
住 所	東京都千代田区
製 品	ポカリスエット 500ml ペットボトル(エコボトル)
概 要	500ml ペットボトル容器の環境配慮設計を目指し、2005 年から独自に技術開発を実施。飲料容器としての安全性を保ち、易流通性を確保すると同時に、国内製造最軽量のペットボトル容器重量 18g(エコボトル)を実現。
受賞歴	2007 年 LOHAS デザイン大賞 コト部門大賞 2007 年 日本パッケージングコンテスト飲料包装部門賞
先進性・独自性	ペットボトルの薄肉化は軽くするほど強度が低下して安全性や流通時の不具合が生じてしまい、実際に消費者の手に渡ったときに柔らかすぎて持ちにくいなどの欠点が生じる。エコボトルは日本初の「陽圧無菌充填方式」を確立し、柔らかい(軽い)ペットボトルに剛性を与えることに成功。
有効性	①リデュース 従来容器の 27g→18g(30%の容器重量削減) 既存製品の代替として年間3億本生産する場合にペット樹脂 2,700トンの削減、CO ₂ 換算では 8,300tの排出削減。 ②リサイクル 陽圧無菌充填方式の特徴として飲用後のエコボトルは容易につぶすことができ、リサイクルにも便利。
経済性	ペット樹脂の使用量が 30%削減することにより容器コストの削減が見込まれる。
普及性	エコボトルは 2007 年4月より順次従来容器から切り替えを始め、9月初旬には全国で切り替えが完了。
その他	①弊社他製品にも応用していきたい ②エコボトルの導入に合わせ社員の環境教育にも力を入れていく考えである
推薦の有無	—
備 考	<p>ポカリスエット『エコボトル』によるリデュース</p> <p>1本あたり 9g削減</p> <p>年間3億本だと 約2,700トンの ペット樹脂削減</p> <p>エネルギー量*2 原油換算約4,000kl削減</p> <p>CO₂量*4 年間 約8,300トン -CO₂削減</p> <p>地球約950周分*3 ガソリン量に相当</p> <p>約1,500世帯分*5の 年間CO₂排出量相当</p> <p>*2、*4：「プラスチック廃棄物処理・処分に関するLCA調査研究報告書」 社団法人プラスチック処理促進協会2001年3月 *3：走行距離10km/Lで計算をおこなった場合 *5：全国地球温暖化防止活動推進センター 2004年段階</p>

部門：製品部門

区分：奨励賞

取組区分	発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)
事業者名	有限責任中間法人グリーンライフ21 代表理事 加藤誠二
住 所	岐阜県多治見市
製 品	Re食器
概 要	<p>・グリーンライフ 21・プロジェクト(GL21)は美濃焼の産地で、原料や食器製造、流通に関わる企業有志と地元試験研究機関などで1997年6月(2006年4月法人化)に設立されたグループで、国内外に先がけて陶磁器リサイクル食器(Re 食器)を開発。</p> <p>・美濃 Re 食器は、生活の中で壊れたり、馴染まなくなった不用食器や美濃焼産地内で発生した不良品を回収し、それを粉砕して原料の一部に20%まぜて再度焼成するもの。Re 食器は、使用者の回収意識と実働がなければ作り出すことができず、使用者参加型の製品である。同時に使用者・行政・流通・研究機関とのリサイクルネットワークの形成がなければ実現できない。</p>
受賞歴	<p>2006年 日本環境経営大賞環境価値創造部門パール大賞</p> <p>2005年 万博協会から「愛・地球賞」(世界の環境技術100件を表彰)</p> <p>2003年 グッドデザイン賞『新領域デザイン部門』入賞</p> <p>2001年 グッドデザイン賞『エコロジーデザイン賞』</p>
先進性・独自性	<p>①Re 食器の生産は国内外発の食器リサイクル技術である</p> <p>②既存食器と同じ工程で同じ品質の Re 食器が作れる</p> <p>③Re 食器は、使用者の回収意識と実働がなければ作り出すことができず、使用者参加型の製品である</p>
有効性	<p>・リデュース:不燃ごみの約5%を占めるといわれる廃陶磁器類を減量することで埋立地の延命が図られる。</p> <p>・リユース:回収された不用食器でリユースできるものは現地で販売されている。</p> <p>・リサイクル:Re 食器はリサイクル率が20%で、既存の工程で生産でき、設備投資が不要。食器(食品衛生法で有害物質の溶出が制限され安全性が確保)に限定して回収することで分別コストが低減される。</p>
経済性	行政の埋立費用削減、原材料費低減
普及性	多摩ニュータウン環境組合、牛久市、所沢市、垂井町、多治見市、長野県波田町消費者の会、小金井市消費者団体等で行政回収や試験回収が始まっている。
その他	<p>①暮らしに身近な日用品である陶磁器食器のリサイクルを、生産者と使用者の連携を構築することにより、環境に配慮する21世紀型ビジネスモデルを確立できる</p> <p>②良質な国内原料である粘土、長石、珪石などの枯渇性資源の有効消費を図ることで、採掘削減による自然環境保全と製品の環境負荷低減を図る。</p> <p>③陶磁器産業の資源循環ビジネスを構築することで、付加価値の高い差別化された商品により地場産業の活性化が図られる</p>
推薦の有無	— 地方環境事務所:応募者は食器の製造を行っているものであり、製品部門の応募資格に合致していない。
取組区分	発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)

部門：製品部門

区分：奨励賞

取組区分	発生抑制(リデュース)、再生利用(リサイクル)
事業者名	中央化学株式会社
住 所	埼玉県鴻巣市
製 品	使用済み発泡PSTレーの店頭回収・リサイクル及び付加価値リサイクル製品の開発、けみかるリサイクル技術の実証試験等の取組み
概 要	<ul style="list-style-type: none">・平成2年から、スーパー、生協と連携し、使用済みPSPの白色・色柄トレーを回収し、非食品容器に再商品化してきた。・独自のリサイクル三原則を基軸に、リサイクル製品の安心・安全の観点から非食品容器へのリサイクルを推進し、平成5年には特許技術であるサンドイッチ射出成形法により屋外家具・エコシリーズを商品化した。また、京王鉄道とPET定期券入りベンチを、伊藤園とお茶殻入りベンチを共同開発した。・PSPトレーのケミカルリサイクルの実用化を目指しており、熱分解法により、スチレンモノマーに還元し、再びバージン同等のポリスチレン素材にリサイクルするシステムの実用化を複数の企業と進めている。
受賞歴	平成18年度 埼玉県・彩の国エコアップ大賞 平成12年度 3R推進・奨励賞
先進性・独自性	家庭から回収される使用済み容器包装をスーパー、生協と連携し、独自ルートでの回収ルートを構築し、廃棄物の削減を実現した。この取り組みは、容器包装リサイクル法施行前から行っている先進的、かつ独自性のある取組。 また、ベンチ等のリサイクル製品も独自性、先進性のあるリサイクル製品であり、かつ実用化を目指しているPSのモノマー化も最先端のリサイクル技術である。
有効性	<ul style="list-style-type: none">・当社の製造販売しているPSPトレーの20～30%を回収・リサイクルし、排出抑制を継続的に推進・回収・リサイクルにより節約された原油は978,400kl、CO2排出量で119,568トンの削減効果。
経済性	平成2年より実施しており、今後もこの取組を推進していく。
普及性	多くのスーパーや生協が参加しており、それらの事業者を通じて消費者や行政からの協力を得られており、波及性の高い取組といえる
その他	リサイクル製品を食品容器に再利用する場合には、食品安全委員会による安全性評価を踏まえたリサイクルシステムの構築を目指している。
推薦の有無	—
備 考	使用済みPSPトレーからバージン同等のリサイクルトレーを試作  エコテーブル・エコチェア

最優秀賞ロゴ拡大パネル

W270×H600 / ネット紙出力 / ネットラミネーションボード



各1枚